

# 不動テトラの安全衛生重点施策



2025年4月

株式会社不動テトラ  
安全品質環境本部

## 目 次

1. 新しい事業年度のスタートにあたって	・・・	1
2. 2025年度 安全衛生管理計画	・・・	2
3. 2025年度 危険有害要因の特定等の結果表	・・・	3
4. 『STOP 類似災害！ 過去の対策忘れずに！ 見直そう 作業手順！！』運動	・・・	9
5. リスクアセスメントの結果を反映した安全衛生目標・ 安全衛生管理計画・作業手順書の作成と周知	・・・	10
6. 外国人労働者に対する適切な安全指導の実施	・・・	12
7. 架空線位置の確認・明示と防護、地下埋設物位置の 確認・明示と試掘の確実な実施	・・・	15

## 新しい事業年度(2025年度：80期)のスタートにあたって

新年度を迎えるにあたって、一言ご挨拶を申し上げます。

建設業における労働災害の発生状況は、長期的に減少傾向ですが、近年は下げ止まりの状況にあり、2024年度においても同じような状況が続いております。当社の昨年度の災害発生件数は、休業災害・不休災害の合計が15件(3月25日現在)となり、災害の多かった一昨年を除き、ここ数年と比較して、ほぼ「横ばい」の状況です。安全成績としては、休業4日以上災害が3件発生し、度数率が目標値を超えたことで、期初に設定した安全目標を達成することができませんでした。

発生した災害のうち、本来の作業以外で起こしたものも多く、そのほとんどが作業員のヒューマンエラーに起因しており、「無事故・無災害の実現」に近づくためには、作業員に対して「やるべきこと・守るべきこと」をきちんと行うよう、指導の継続が必要です。

当社における近年の労働災害発生状況等を踏まえ、今年度の安全衛生管理活動の基本となる『2025年度安全衛生管理計画』を策定しましたので伝達します。

ここ数年発生している災害を見ますと、過去に起こした災害と同じような災害が繰り返し発生しています。災害の発生件数を少しでも減らすためには、このような「類似災害」を減らしていかなければなりません。

今年度は、「類似災害の防止」に焦点をあて、最重点実施事項として、『**STOP類似災害！過去の対策忘れずに！見直そう作業手順！！**』運動を展開します。災害が起きた作業と同じような作業を行う場合は、過去の再発防止対策を見直し、現場に即した作業手順を作成、周知・確認するとともに、実際に作業する際は「声かけ」・「指差呼称」等、危険感受性を持った工事の施工をお願いします。

また、打合せにない作業等での「軽率な行動」や「近道行動」による災害も発生していることから、昨年度の「**非定常作業 作業ストップ 手順の確認 KY実施**」運動は継続しますので、非定常作業が発生した場合は、作業再開までのルールを確実に守るよう徹底して下さい。

そのほか、「三現主義」(現場に足を運び・現物を確認し・現実を知る)の確実な実施、「手・足・体の位置確認」・「指差呼称」・「声かけ」・「見える化」の安全活動の推進、「3ない管理」(黙認しない・妥協しない・放置しない)に徹した現場巡視を行う等、慣れと油断から起こる災害の防止を目指すほか、若手社員の危険感受性の向上を目的とした「体験型安全教育」・「KYT(危険予知訓練)」の実施を掲げています。

昨年度果たせなかった「安全目標の達成」を、今年度こそ達成するため、『2025年度安全衛生管理計画』を確実に実施して、「無事故・無災害」を目指していきましょう。

安全衛生管理計画ポスターを各作業所および本支店・総合技術研究所・機械センター・営業所・事務所に配布します。掲示するとともに、計画された内容を協力会社を含め関係者全員に展開、趣旨徹底をお願いします。

株式会社 不動テトラ  
執行役員 安全品質環境本部長  
山本 詔

# 2025年度 安全衛生管理計画



## 品質環境安全衛生方針

当社は、土木事業、地盤改良事業及びブロック環境事業の3事業を通じて、社会課題の解決に取り組みます。利害関係者とコミュニケーションを図り、事業環境と運用状況を的確に捉え、マネジメントシステムを継続的に改善し、使いやすい状態を維持します。

必要な資源を確保して、マネジメントシステムを確実に運用し、関係法令及びその他の要求事項を順守するとともに、社会課題を解決します。

社会課題の解決に向けた取り組み内容を、積極的に開示します。

## 安全衛生

人命尊重の理念のもとに「安全最優先」で事業活動を行い、リスク評価を徹底し、施策を確実に実行して、災害の絶滅と工事事故の防止、健康増進並びに職場環境の改善に努めます。

## 重点施策

重点施策	店社の重点実施事項	作業所の重点実施事項
労働安全衛生マネジメントシステムの適切な運用	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ISO45001の継続的な維持・管理と適切な運用</li> <li>● ISO45001審査指導事項等の水平展開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 全社の「危険有害要因の特定等の結果表」の作業所への反映(予想される災害・防止対策)</li> <li>● リスクアセスメントの結果を反映した安全衛生目標・安全衛生管理計画・作業手順書の作成と周知</li> </ul>
安全衛生活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「STOP類似災害! 過去の対策忘れずに! 見直そう作業手順!!」運動の推進</li> <li>● 実作業を考慮した作業手順・作業計画の策定への指導・支援とその確認</li> <li>● 現場条件を考慮した適切な人員配置の検討</li> <li>● 安全衛生委員会規則に則った安全衛生委員会の開催と活性化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「STOP類似災害! 過去の対策忘れずに! 見直そう作業手順!!」運動の実施</li> <li>● 実作業に即した作業手順・作業計画の策定・周知と作業開始後の見直し</li> <li>● 作業内容に即した適切な人員配置とそれぞれの役割の完全実施</li> <li>● 外国人労働者に対する適切な安全指導の実施</li> </ul>
三大災害の絶滅 (はさまれ・巻き込まれ災害、飛来・落下災害、墜落・転落災害)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● より効果的なパトロール方法を検討し、他部門・他部署・若手との合同実施</li> <li>● 発生した災害(事故)の徹底した原因究明と、具体的な再発防止策の水平展開</li> <li>● 安全衛生パトロール是正指示事項・良好事項、監督署臨検指導事項の水平展開</li> <li>● 体験型安全教育・KYT(危険予知訓練)等による危険感受性向上施策の立案と支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 3ない管理(黙認しない・妥協しない・放置しない)に徹した現場巡視</li> <li>● 災害(事故)事例の確認と作業手順書・KYへの有効活用</li> <li>● 「非定常作業時の対応」・「三現主義」の確実な実施、「手・足・体の位置確認」・「指差呼称」・「声かけ」・「見える化」の安全活動推進</li> <li>● 体験型安全教育・KYT(危険予知訓練)等による危険感受性の向上</li> </ul>
公衆災害・公衆事故・交通事故の防止	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 安全運転管理者の確実な選任と職務の遂行(運転者の運転前後のアルコールチェック他)</li> <li>● 交通安全教育、長時間連続運転の禁止、疲労軽減への配慮、健康状態の把握</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 架空線位置の確認・明示と防護、地下埋設物位置の確認・明示と試掘の確実な実施</li> <li>● 通勤を含めた交通安全教育、運行ルートの変更およびヒヤリマップ作成と周知</li> </ul>
「心とからだの健康づくり」および職場環境改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 定期健康診断の受診確認と有所見者への再診・再検指導</li> <li>● 特定保健指導利用の周知・参加促進による特定保健指導実施率の向上</li> <li>● 時間外・休日労働時間の削減、休日振替の促進、年次有給休暇等の取得促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 定期健康診断の確実な受診および有所見者の再診・再検</li> <li>● 特定保健指導の積極的な利用による特定保健指導実施率の向上</li> <li>● 時間外・休日労働時間の削減、休日振替の促進、年次有給休暇等の取得促進</li> </ul>

## 安全目標

1. 死亡災害：0件
2. 公衆災害：0件
3. 度数率：0.95以内(統計内 休業4日以上)  
強度率：0.08以内(統計内 休業4日以上)

## 衛生目標

1. 定期健康診断の受診率100%、二次検査受診率85%以上
2. 特定保健指導実施率30%以上
3. 過重労働(時間外・休日労働時間が1ヶ月あたり80時間超)の撲滅  
医師による面接指導対象者への確実な面談実施  
※面接指導対象者(時間外・休日労働時間が1ヶ月あたり80時間超)

年月	2025年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2026年 1月	2月	3月
月別重点項目	墜落・転落災害の防止	はさまれ・巻き込まれ災害の防止	飛来・落下災害の防止	建設機械・クレーン等災害の防止	感電等電気災害の防止	崩壊・倒壊災害の防止	激突され災害の防止	墜落・転落災害の防止	建設機械・クレーン等災害の防止	転倒災害の防止	はさまれ・巻き込まれ災害の防止	飛来・落下災害の防止
	交通事故・災害の防止	定期健康診断受診の徹底	熱中症の予防	ストレスチェックの実施	潜水災害の防止	交通事故・災害の防止	健康管理と職場環境の整備	架空線・地下埋設物事故の防止	休止期間中の保安対策の確立	切れ・こすれ災害の防止	船舶・作業船災害の防止	公衆災害の防止
主要行事予定	安全衛生管理計画の周知期間	全社安全大会	安全衛生推進大会	全国安全週間 特別パトロール			全国労働衛生週間 特別パトロール		年末年始労働災害防止強調期間 特別パトロール	安全祈願		年度末労働災害防止強調週間



この表は、当社の過去の災害および事故事例をもとに要因を特定し、類似災害の防止を図るための結果表である  
 下線部分は、2024年度に発生した災害および追加した項目である

<陸上工事>

大工種	中工種	要素作業	事故の型	危険有害要因の特定(予想される災害)	危険有害要因の除去・低減のために実施すべき事項の特定(防止対策)
シールド	シールド設備設置・撤去	坑外設備解体撤出	激突され	●クレーンが倒れ、作業員が下敷きになる	●作業半径に応じた定格荷重範囲内の荷を吊る ●地盤が軟弱であり転倒するおそれのある場所では、転倒を防止するために敷鉄板等を敷設する
	シールド掘進	軌道設備の設置	はさまれ・巻き込まれ	●レールを枕木上で横移動中、レールと枕木に手指を挟まれる	●レールの横移動はローラーベルコンを使用する作業手順にする ●レールや枕木を扱う人数を2人以上とし単独作業は行わない
		セグメント組立	はさまれ・巻き込まれ	●セグメント吊り金具とエレクターの間に手・指を挟まれる	●吊り金具の向き修正及びピン挿入時はエレクター操作を同時に行わない ●吊り金具の向き修正のための専用のカキ棒を使用する
		セグメント搬送	はさまれ・巻き込まれ	●セグメントと枕木の間に足を挟まれる	●電動チェーンブロック操作時は荷から離れ、挟まれない位置で操作する ●スイッチの動作について、日常点検に追加する ●スイッチに不具合が生じた場合、使用しないよう周知する
トンネル	ボーリング工	ボーリング	はさまれ・巻き込まれ	●ケーシング引き抜き中、具上がりしたケーシングとロッドの縁がきれて突然ケーシングとロッドホルダーが落下し、ロッドホルダーの持ち手とボーリングマシンの足場の単管に手指が挟まれる	●作業手順書に正しいロッドホルダーの使用法を追記し周知する ●手順書にない作業が発生した際には、一旦作業を停止し、関係者と新たに手順を検討する
	発破・掘削	穿孔	飛来・落下	●削孔作業中、地山を確認するため切羽に近づき、吹付けコンクリートが落下する	●異常時には、作業を止めて職員へ連絡し指示を仰ぐ ●異常が発生したら、切羽には立ち入らない
		ヘルコン清掃	墜落・転落	●防護板を復旧しようとして坑内ベルトコンベアのストレージセット中段に上ったところ、足元の防護板が外れ転落する	●ベルトコン防護板には乗らず、ベルト横に簡易足場を用意して作業を行う ●ベルトコンベアを水洗いした際、特に冬季は一定時間空運転して水切りを行う
	吹付けコンクリート	ホース交換	飛来・落下	●吹付け機のスライドカバー上に付着していた吹付けコンクリートの塊が落下する	●吹付け機のフーム等に付着したコンクリートは確実に除去する ●吹付け機のフーム直下で作業する時は、上部に落下物が無いを確認する
		モルタル吹付	飛来・落下	●モルタル吹付作業中、モルタルホースが破損しモルタルが供用線側へ飛散する	●摩耗しやすいホース接続箇所は日々点検し、点検結果に応じて早めに交換する ●万一の破綻時に備え、ホース全体をサーボホース等で覆う
	覆工	接型枠設置	飛来・落下	●型枠組立時、懸垂灯が落下して手に接触	●懸垂灯設置時は、接触や振動で外れないよう確実に落下防止(2カ所所定)を実施する ●充電式の簡易照明または、ヘッドライトを用いて照度を確保する ●手順書に照明設置時の落下防止固定方法の旨を追記し、実施する
		コンクリート打設	飛来・落下	●配管の下に敷いていたバタ角から配管がずれ、足に当たる	●レバブロックでポンプ車と配管を固定する ●バタ角と配管を番線で繋ぎ、ずれて配管が落ちないようにする
	雑工	重機足場造成	墜落・転落	●玉掛完了後、退避しようとしてボックスカルバートの天端に降りた際にパラソルを崩し、カルバート天端から落下する	●墜落・転落が懸念される箇所では玉掛作業は行わない ●狭路又は落下等の危険がある場所での玉掛作業は、退避ルートや退避場所を決め、作業計画書に記載・周知する
		塩ビ管撤去	激突され	●抜けた塩ビ管を人力で撤去しようとしてバックホウのバケットを旋回したところ、塩ビ管がバケットに引っ掛かり外れて当たる	●塩ビ管撤去の詳細な作業手順を策定する
	河川	仮締切	鋼矢板打設	転倒	●オーガケーシング引抜き時の泥溜とバンドを装着時、体勢を崩して転倒する
仮橋		仮橋組立	はさまれ・巻き込まれ	●横継材を斜めに玉掛けた状態で設置しようとした際、横継材が跳ねてフランジと横継材に指を挟まれる	●手の位置は、挟まれない位置(主桁の外側フランジ等)に配置し協働者がお互いに声掛けし確認する ●横継材の玉掛は重心をずらさず水平に吊り、主桁方向に回転させ主桁間に入れ込み設置して横継材の荷振り(跳ね上がり)を防止する
足場組立		足場組立	墜落・転落	●鋼製足場板を手持ちして運搬中、躯体の開口部から足を滑らせ、途中の防護ネットを破り最下段のコンクリート面に落下する	●開口部ごとに手摺を設置し、開口部間に作業通路を確保する ●ネット設置する場合は、強度を確認する ●開口部立上り禁止箇所を作業を行う場合は、事前打合せによる安全対策ルールを定める
躯体工	ボーリング工	ボーリング	はさまれ・巻き込まれ	●簡易買入試験の実施中にハンマーと台座の間に手指を挟まれる	●ハンマーの落下終了確認後、ハンマーの中心部を持ち、持ち上げ落下させる ●ハンマーに【中心部を持つ!】の表示を行い、注意喚起をする
	型枠組立・解体	はさまれ・巻き込まれ	●型枠を吊り上げ時、子フックが回転してワイヤーロープのよりの戻り、ワイヤーに手指を挟まれる	●玉掛ワイヤーに生じる自転性について、作業員全員に危険性を周知する ●合図者は作業を行わない荷に触らない ●合図ロープ等の使用を徹底する	
		飛来・落下	●内型枠を脱型して吊り上げる際、型枠が足場上部の頭つなぎに接触し、桧木吊り荷が破断して落下する	●吊り荷作業時は人払いを徹底する ●吊り荷作業は2点吊りで行う	
	鉄筋建込	機械転倒	●ラフタークレーンブームを伸ばし作業半径確認中、アウトリガー部の地盤が陥没し、クレーンが転倒する	●地中レーダー探査にて空洞があった場合、ボーリングにて空洞の確認後、空洞箇所を充填する ●アウトリガー設置箇所に鉄板を敷設する	
	鉄筋かご組立	激突され	●架台撤去時、単管パイプで主鉄筋を持ち上げた所、主鉄筋が滑り落ち手に接触する	●作業前に適切なサイズの架台を作成するよう、作業手順書に追記する ●作業手順書にない作業が発生した場合は一旦作業を中断し、非常時作業打合せ指示書を作成・周知を行い、作業を再開する	
基礎工	場所打杭	転倒	●主筋の間隔を巻き尺で測定中、りん木材を跨ごうとして後足が引っかかり転倒する	●現場に立入る際は、その前に必ず現場状況、危険のポイントと対策を確認し、周囲の作業員に声掛けした後に立入る	
道路	鋼管ソイルセメント杭	はさまれ・巻き込まれ	●無線オペレーターに合図中、掘っていたゴンドラと降下してくる鋼管回転装置との間に指をはさまれる	●ゴンドラ上での鋼管建込の作業手順を盛り込み、周知する ●施工機OPから見える位置に回転灯を設置し、ゴンドラが回転装置と接触するおそれがある位置にある時には回転灯が点灯し、退避した時には消灯する装置を設置する ●無線での合図と回転灯の消灯したことを確認してから、施工機OPは鋼管回転装置の昇降を行う	
	用排水工	コンクリート二次製品切断	激突され	●コンクリート二次製品をエンジンカッターで切断中、エンジンカッターが跳ね上がり激突する	●切断に適した場所で、正しい姿勢でゆっくり作業する ●切断作業はエンジンカッター操作に熟練したものが行う
	躯体工	クレーン作業	切れ・こすれ	●カップラシ先端のワイヤーが飛散し服の上から刺さる	●飛散したワイヤーはほうき又は磁石で除去する ●カップラシを使用して作業中、体が構造物と接触する作業があるときは作業前に粘着クリーナーで除去する
			●ディスクサンダーのコードが足場支柱に引っかかり、右手からディスクサンダーが抜け落ち左腕に接触する	●ディスクサンダーは両手で持って作業する ●ディスクサンダーのコードが長いときは、コードをクリップで固定する ●クレーン作業時はディスクサンダーはフルカバー式を使用し、切削防止手袋に加えてアームプロテクターを着用する	
シート養生	墜落・転落	●柱コンクリートの養生シート飛散防止用ロープを締る際、脚立ごと倒れる	●全てのディスクサンダーにサイドハンドルを取り付けて使用する ●クレーン作業では全面保護カバータイプのディスクサンダーを使用する ●切削手袋、アームプロテクター着用を徹底する		
雑工	目隠し柵	飛来・落下	●目隠し柵が、突風により本線側に転倒する	●転倒のリスクが少ないベガスを使用可能な作業場所では使用する ●突発的な作業時は必ず非常時作業KYを行い、安全な作業方法・安全な作業手順を確認し各作業員に周知してから作業を開始する ●1.2m程度の高さの作業であっても、作業を安易に考えず、作業前に一人KYを行い危険が無いと考える習慣をつけるよう教育を行う	
				●台風等の強風時は、発注者と協議の上、目隠しシートを一時撤去(巻下け)する等の転倒防止措置を講じる ●巡視時の点検を確実に実施する	

大工種	中工種	要素作業	事故の型	危険有害要因の特定(予想される災害)	危険有害要因の除去・低減のために実施すべき事項の特定(防止対策)		
道路	雑工	資材片付け	飛来・落下	●バックホウで法面養生用ネットを吊り上げた際、ネットに絡まっていた土壌が後頭部に落下する	●吊荷直下に作業員を入れない ●ネットはゆっくりと吊上げて、絡まっているものがないか確認する		
			架空線切断	●鉄筋を撤去の際、バックホウブームを上げて移動していたため、架空線を切断する	●架空線に対するのぼり旗等の注意喚起明示を行う ●移動時に必ず誘導者を配置し、周辺確認・注意喚起を行う		
	足場上の歩行	足場上の歩行	衝突	セメント袋(25kg)を担いで移動中、足場板を固定している桧木につまづいてバランスを崩し、左肩を吊りチェーンにぶつかる	●人力にて重量物を運搬する場合は、狭幅の一輪車を活用し、取扱者への負担を軽減する ●通路上の段差にはゴムマットを敷き段差を低減する ●通路をゴムマット等で明示する		
	規制内移動	規制内移動	交通事故	●作業帯に進入してきた一般車と走行中の工事車両が接触する	●規制内移動時は、路肩側を通行する ●朝礼時に一般車進入の危険性を周知する		
鉄道	基礎工	鋼管ソイルセメント杭建込	はさまれ・巻き込まれ	●ハイウォッシャーで排泥時、ホースを回転ローラー部に巻き込まれ、右手を回転ローラー部にぶつける	●ロ元管内部にシルト塊が付着している場合、ハイウォッシャーの固定金具を取り付けて使用する ●ハイウォッシャーのホースをロ元管内に入れない		
			材料荷降し	飛来・落下	●鉄筋かごをトレーラーから荷降しするためチェーンブロックを3人で纏めていたところ、鉄筋かごが荷崩れを起こし下敷きになる	●鉄筋かごの積載は安定させるため最大3本積みとする ●回轉は2箇所以上とし、キャンパーを設置 ●乗入時に乗注者が荷姿・固縛状況を確認する(乗注者の確認なしで荷下ろしは実施しない) ●荷下ろし順序として協力会社は固縛解除前に、玉掛けを実施するその後、作業指揮者の合図の元、運送業者が回轉を解除する	
	基礎工	盤下げ掘削	崩壊	●バラスト止めのPC枕木が崩れ、バラストが崩壊	●障害物などいつもと違う現象が発生した場合は、独断で判断せずに確認してから作業する ●バラスト止め積積を押し打ちする ●鋼矢板打設完了後鋼矢板をバラスト止めの間に突っ張りを入れて補強する ●鋼矢板の打ち止め高さを上げて、盛土の掘取りを少なくする ●軌道に変位を及ぼす恐れがある作業は施工に立会を依頼する		
			切れ・こすれ	●グラインダーがはじかれ保護手袋を首用していた手指を裂傷する	●押さえる位置は保護カバー先端ではなく、本体に近いカバー根元部分に添える ●手元確認を促す注意喚起の表示を行う		
	躯体工	足場昇降	はさまれ・巻き込まれ	●昇降階段を降りる際、上部の階段ステップに手を置いたところ、上部から降りてきた作業員に手を踏まれる	●昇降の際、適切な距離を保ちながら昇降する ●階段を昇降する際は手すりを使用する		
				足場解体作業	墜落・転落	●枠組足場の太ばらし中に、無理に吊り上げたため部材の一部が破断・横振れし玉掛け者に当たり転落する	●枠組足場を太ばらしする場合は、2層5スパン以内とする ●頼綱は、確実に安全帯が使用できるように設置する(頼綱スパンは、5m程度以内とする) ●枠組足場の解体作業中は、必ず安全帯を使用する ●枠組足場は、原則として「手すり先行足場」を使用する
		鉄筋立	はさまれ・巻き込まれ	●段取り筋をハンドカッターにて切断した際に、指を挟まれる	●ハンドカッターを鉄筋にセットする際は、まず調整用鉄筋を下におき、手の位置を確認してから切断作業に入る ●段取り筋は、組み立て箇所にて切断する必要のないよう予め切断加工を行っておく		
				ポンプ車移動・再設置	はさまれ・巻き込まれ	●OPと世話役の連絡不足でアウトリガーに足を挟まれる	●ポンプ車掘付け時はアウトリガー周囲の立入を禁止する ●ポンプ車運転者と職長(コンクリート打設工は「掘付け開始」「掘付け完了」の合図確認を行い、各作業を開始する
				PC桁ブロック接合	墜落・転落	●桁天端上でレバーブロックにてブロック接合時、バランスを崩して転落する	●安全帯使用責任者に声を掛け、監視のもと作業を行う ●張出し鉄筋上で作業を行う場合は桁接合部両側に足場を設置し、鉄筋上には足場板を設置する ●安全帯を掛ける単管手摺は抜けがないように設置する
	路盤工	路盤コンクリート打設準備	路盤コンクリート上から降りる際、丸鋼を避けようとして着地の際に足首をくじく	●作業開始前に作業箇所近傍に昇降ステップを設置し、路盤コンクリートを昇降する際は必ずステップを使用する			
溝掘			切れ・こすれ	●電動サンダーを抱えて移動した際、スイッチがオンになり腕を裂傷する	●工具類の移動、片付けは、安全装置が作動している事を確認し、所定のケースに入れ移動する ●片付け時は、バッテリーを外し、刃部を体から離れた状態で取り扱うよう周知する		
材料確認		はさまれ・巻き込まれ	●鋼板を2人で抱えて仮据付する際、互いの息が合わず手指を鋼板とコンクリート面に挟まれる	●狭い場所で重量物を扱う場合、キャンパー等を事前に設置し、設置間隙における指の空間を確保する ●仮据付の場合は外れることを予測し、ロープ等を鋼板下に通して持ち上げて設置する			
雑工	資材片付け	動作の反復、無理な動作	●現場内のトランプを人力にて移動する作業を、3人でローテーションしながら2人で行っていた所、腰を痛める	●資材の重量に合った人力運搬の方法・人数を手順書に明記し周知する ●腰部に負担がかからない持ち上げ方法を周知する			
造成	準備工	伐採作業	●木をチェーンソーで切断した際、木が倒れると同時にツタで繋がっていた隣木が折れて衝突される	●作業前にグループ(複数人で現場状況を確認し、具体的な退避場所の選定を行う) ●ツタが絡まり伐倒できない木は重機と人力を併用して作業を行う			
			敷設板吊り込み作業	はさまれ・巻き込まれ	●吊金具の外れ止め装置が開まらなかったためOPは吊荷を一旦吊下げ後、玉掛け者が吊金具を直すために手を出したところ、外れ止め金具が開まり指をはさまる	●吊具の始業前点検・使用前点検を確実に実施する ●必ずOPに合図をしてお互いに確認してから作業を行う ●ハンマーやバール等を使用して作業を行う	
	切土・盛土	排水管敷設	崩壊・倒壊	●切土法面の法尻部で排水管の敷設作業中、切土法面の表層が崩落して生き埋めになる	●法定安全勾配で安定計算上、安全な勾配であっても周囲の作業環境を考慮し、できるだけゆるやかな勾配で掘削を行う ●勾配を測定し、記録する ●法尻部に立ち入り禁止措置を行う ●落石・崩壊の危険のある場合は、防護ネットを設置する		
			2次製品据付	吊り込み作業	はさまれ・巻き込まれ	●H鋼を用いた自由勾配側溝専用の吊具の玉掛け時、吊り具の位置を調整しようとした際、側溝と吊り具の間に指を挟まれる	●吊り具の位置を調整する必要のないものに変更する ●玉掛けの際に専用吊り具の上部に触れないよう、トラテープ等で明示を行う
	雑工	切断作業	切れ・こすれ	●自由勾配側溝をコンクリート用エンジンカッターで切断時、カッターの刃が跳ねてきた	●切断の際には下向きでの作業とし、2次製品を置き直し安定した姿勢で作業する ●刃を点検し、有資格者が刃の交換・点検を行う		
明示ロープ設置				切れ・こすれ	●明示ロープ設置時、カッターナイフでロープを切断しようとした際、カッターナイフが指を切る	●トラロープの切断は、万能はさみを使用する ●鉄ピン・トラロープの安全補設置時の作業手順書を作成し、作業員全員に周知する(カッター使用禁止、万能はさみを使用)	
除雪		架空線損傷	●予定には無かった除雪及び走路整備を実施した際、重機OPは上空に電柱の支線があることに気付かず、バックホウのブームを上げたまま旋回し支線を引っ掛け、支線の電柱が折れて転倒する	●予定外作業が発生する場合は、作業前に職員及び作業関係者で作業方法・手順の確認を行い、現地KYを実施する ●架空線近傍に三角旗及び登り旗を設置して明示をする ●架空線近傍作業がある場合、作業前に架空線の位置を作業関係者に周知をし、作業場の確認を行う ●架空線のハザードマップを更新し、協力業者に周知を行う			
上下水道	ボーリング工	ボーリング	ガス管損傷	●ボーリング調査中、ガス管に接触する	●固い物体にぶつかった際は一旦作業を中断し、原因を特定してから作業を再開する ●埋設物がある箇所付近の施工は、事前に試掘及び立会を行う ●事前にガス会社と埋設物の事前協議をする		
			仮設工	試掘	水道管破損	●鋼矢板の残留確認でバックホウにて掘削の際、水道管を破損する	●掘削前に埋設図面を必ず確認し、管路センター立会のもと試掘を行い、埋設物の確認をする
	推進工	全ての坑内作業	墜落・転落	●梯子を昇降中に墜落する	●昇降階段を設置する ●昇降階段を設置できない場合は、梯子を設置し、安全帯と垂直頼綱(セフティブロック、ロリップ等)を必ず使用する ●手に物を持って昇降しない		
			既設掘削の取壊し作業	墜落・転落	●バックホウキャビンから降りて撤去箇所を確認しようとしたところ、足元がもつれキャビンから地面へ転落する	●バックホウの昇降をする際は、ステップ及び手すりを指差し呼称で確認し、3点支持を徹底する ●キャタピラとキャビンを正規の向きにして、キャタピラのステップを使用して昇降することを徹底する	
	土工	掘削	バックホウ転倒	●法肩が崩壊しバックホウが転倒する	●掘削勾配、法肩からの離れをそれぞれ丁張りカラーコーンで明示、注意喚起看板を設置するなど、安全ルールを作業手順書に記載し、かつ見える化を行う		
除染	積込・運搬	玉掛け	墜落・転落	●大型土のうに上がって玉掛け作業を行う際に、足を滑らせ転倒する	●長い玉掛用具(ナイロンスリング)を使用して、大型土のうに上らない		
開削	夜間場内歩行	夜間場内歩行	墜落・転落	●SMW施工用溝掘削機へ転落する	●危険箇所は、注意喚起の看板及びカラーコーン点滅灯を設置する ●朝礼・KY時に立入禁止箇所を周知徹底する		

大工種	中工種	要素作業	事故の型	危険有害要因の特定(予想される災害)	危険有害要因の除去・低減のために実施すべき事項の特定(防止対策)
電力	撤去工	コンクリートコア抜き	排水管の破損	●底盤コンクリート部をコア抜きした際、余剰排水管の一部を破損し漏水する	●周囲の状況から、埋設管等の有無について検証し、必要であれば発注者等関係先に確認する
地盤改良(圧密・締固め)	組立・解体砂杭系	下部振れ止め取付	飛来・落下	●リーダー・履下下部及び下部振れ止めの取り付け作業中、下部振れ止めが落下し、臀部に激突する	●専用金具(落下防止金具)を使用する ●作業員同士が声を掛けあい、機械の下に体を入れないよう注意する
		エアホース取り外し	飛来・落下	●残圧抜きの際、エアホースが外れヘルメットと額にぶつかる	●「残圧ゼロを確認してから送気バルブを開く」を、作業手順に追加する ●カムロックに加え、番線等で抜け止め養生を行い、目点検する
	リーダー傾倒	クレーンブーム折損	●100t・75tラフタークレーンを使用してリーダー傾倒作業中、リーダーを吊っていた100tラフタークレーンのブームが折損する	●合図者・主クレーンオペ(100t)・SAVE-CPオペ・作業指揮者は無線を使用し合図を確認しながら作業を進め、緊急時に各機械をすぐに停止ができる状態にする ●作業所長(もしくは代理者)は組立・解体作業のリーダー起こし(降ろし)工程に必ず立ち会う ●組立・解体作業体制事前通知書にブーム長・作業経験等を追加し、店社で確認後その内容を作業員へ周知する	
	施工砂杭系	施工【SAVE】	砕石飛散 作業油飛散	●ケーシングパイプ内に砕石がつまり、地表面上で管内の加圧をした際、砕石が飛散する ●ドレーンホースのカプラーが外れ、昇降装置付近から作動油が飛散する	●管内の加圧をする際は、ケーシングパイプを地中へ確実に打込んでから行う ●加圧する際は、ゴム板製の飛散防止シートを設置する ●ホース牽動により引っ張られて抜けないよう、ホースに遊びをもたせる ●作業開始前にホースジョイントの状態(カプラー劣化、ゆるみ等)を確認する
施工砂杭系	施工【SAVE-SP】	飛来・落下	●高圧洗浄機のノズルとホースを持ってかわす際、誤ってトリガーを握り、高圧水が顔に噴射する	●高圧洗浄機のノズルの置き場をマシン本体とロッド架台に設置するとともにホースを常に整理・整頓し、絡まる場合には洗浄機のホースは常に最上層に置くことをルール化、徹底する ●高圧洗浄機とホースとの間に開閉コックのバルブを取付け水圧を調節できる構造とし、移動・段取り換え等の作業時には開鎖する ●器具の各部位を持ち込み時、及び作業開始前に点検を実施し、破損している場合は速やかに取り替える	
地盤改良(固七)	組立・解体固化系	オーガー取付	墜落・転落	●オーガー踏み場からライトステップに移る際、バランスを崩し飛び降りかかとを骨折する	●昇降口付近は整頓をして、歩行動線が確保されているか確認する ●昇降時は、手摺付きライトステップを使用する
		吊ビス位置修正	動作の反動	●吊ビス取付六角ボルトを緩めた際、簡単にボルトが緩みバランスを崩し転倒する	●作業開始時に、締め具合を確認する ●出庫前、部材が正しく組まれているか確認して出庫する ●現場では、組立前に部材の規格等不備の無いことを確認する
		人力移動	動作の反動	●施工機(CI-CMC)を解体中、リーダーを寝かせてその下に架台(約100kg)を設置する際、仮置きした架台を移動微調整する作業を人力で引っ張った際に腰に激痛が走る	●人力運搬は、左右同人数(合計が偶数になるように)で動かす ●移動する場所の平坦性を確認する
	施工固化系	セメントサイロ設置	送電線短絡	●送電線下で、クレーンで荷を吊って移動しようと旋回した時、ブームが送電線に接近して、短絡する	●作業前に、電力会社の立会いを行い、送電線高さおよび離隔高さを確認する ●送電線下での作業は、監視員を置き、作業を監視させる ●クレーンに標識指示ロープ等を設置して、安全措置をする ●送電線下に、危険標識を設置する
		待機準備	はさまれ・巻き込まれ	●打ち込み用捨てヘッドに交換する際、手で転がした為、指をはさむ	●捨てヘッドの吊り作業は1本ずつ玉掛けを行い、転がしての移設作業はしない
		台風待機	倒壊(施工機)	●攪拌軸の貫入と施工機後方にトラワイヤーを2本張った状態で待機中、リーダーが倒壊する	●攪拌軸が貫入不可の場合、攪拌翼軸を解体して、オーガーモーターの位置を下げる ●事前に元請けへ相談し、展張角度を広げられる用地を確保し、十分な角度で展張する
		施工機移動	機械転倒	●施工機の移動中、または施工時に施工機が転倒する	●支持地盤の安定検討を行う際の安全率を統一する(安全率=3.0) ●施工前および施工中、フルフローリングにより支持地盤の状況を確認する ●敷鉄板の敷設は井桁敷とし、上下の敷鉄板の端部を重ね合わせない
		施工【CI-CMC】	セメントミルク飛散	●オーガーモーター内部配管とフランジの間をセメントミルクが伝って、上部より飛散する	●固定ナットに緩みがないか確認するため、フランジ上部の減速機と回転軸の間を確認する ●作業開始前にフランジ上部の減速機と回転軸の間を目視点検を行い、週1回、隙間の計測を行う
			土砂の飛散	●打設中、民家に土砂が飛散する	●飛散防止シートを民家方向に拡張し、排泥の飛散を防止する ●監視員の合図で、貫入に合わせて巻き込みを防止しながら飛散防止シートを降下させる ●エアの噴出は、飛散防止シートで杭孔が隠れるまで行わない
			土塊の落下	●攪拌翼取り外しの際、ハンマーで攪拌翼の軸受けピンを叩いていた際、攪拌翼上部に付着していた土塊が手に落下する	●飛散防止枠下部に立入る際は土塊付着を確認し、付着がある場合は土塊除去完了まで飛散防止枠下部は立入禁止とする ●飛散防止枠下部に立入る際の作業手順を周知徹底する
			土塊の落下	●前日取り換えた攪拌翼の点検をした際、飛散防止カバーに付着していた土砂の塊(セメント混じり)が落下する	●振れ止め直下に立ち入る前に回着物を取り除く ●清掃後の土塊取り残しの目視確認を2人以上で実施する ●振れ止め天板上にハイブレードを取付け、回着物を取り除く
			飛来・落下	●ロータリーミキシング施工機の移動に伴い材料ホースを準備中、近くを走行した相番のバックホウから泥がはねて目に入る	●重機走行場所の近傍に入っている場合、無線等で人払いしてから走行する ●作業員が立ち入って作業する際、カラーコーン等で作業場所を区画してから作業を行う
		施工【FTJ】	飛来・落下	●コンプレッサーホースを外したところの残圧が抜け切れておらず、ホースがはねてホース先端のカムロック金具が層間にあたる	●水抜き作業でエアを使用する場合は2人以上で行う ●水抜き作業の手順書を作成し、周知徹底する
			飛来・落下	●ノズル詰まりを解消するため攪拌翼の片側のエアキャップを外し、もう片方を外そうとした時、ノズルブロックが外れ飛び出し飛散する	●詰まり解消作業時は人払いを徹底する ●本体側の圧力を表示できるデジタルメーターを取り付けて本体OP・手元作業員が確認できるようにする ●攪拌翼を整備する際は残圧確認を徹底する
排泥ホース養生【FTJ】	激突され		●排泥ホースジョイント部が敷鉄板端部に引っ掛かり、修正しようとして持ち上げた際、排泥ホースがはねて膝に当たる	●ホースジョイント部に古タイヤを固定して敷鉄板端部に引っかからないよう対策を施す ●排泥ホースに異常を認めた場合は、共同作業者に声掛けして作業を停止してから作業する	
施工【PB】	土砂の飛散		●打設中、泥土が仮囲いを越えて第三者に飛散する	●適正な高さの仮囲いを設置する ●誘導員、監視員を配置して作業を実施する	
(地盤改良) 施工ドレーン系	修理作業	動作の反動	●レバーブロックをカー杯押そうとした際、急に緩みバランスを崩しレバーブロックとワイヤーに衝突する	●レバーブロックの取扱い教育を徹底する	
	材料交換	激突され	●ドレーン材のリールカバーが落下しそうになり咄嗟に手で掴もうとして、指がリールカバーにぶつかる	●無理のない体勢で作業ができる位置にリールカバー置場を設置する ●作業下の人払いを徹底する	
(地盤改良) 施工締切・遮水	資材の移動	飛来・落下	●クローラークレーン吊り治具下に入り、玉掛けワイヤーを吊り治具から外そうとした際、吊り治具が落下する	●吊り荷の下には入らない ●吊り荷の周辺には立ち入り禁止措置(バリケード、標識等)を行う ●吊り治具を吊った状態で作業を終了させない ●クレーン作業時はフリーモードで操作をしない、必ず自動モードで操作を行う ●現場監視時には、基本ルール(吊り荷下への立ち入り禁止等)の指示内容の遵守状況を確認する	
陸上地盤改良(共通)	ボーリング	飛来・落下	●ロープトングを使用しロッド引抜時、ロープの編み込みが抜けロープトング金物が前頭部に当たる	●既製品のロープを使用する(鋼線用ロープφ16mm) ●ロープのほつれ、吊治具の点検をこまめに行う ●ロッド引抜の際、必要な時以外マシンから離れる	
		はさまれ・巻き込まれ	●ドライブハンマーを上にあけたが、ピンを外していないことに気づいてピンを外したが、左手でロッドを掴んだまま落ちてしまし、ドライブハンマーとロッドの間に指を挟まれる	●標準費入試験時はドライブハンマー使用前にピンを外してから使用する ●お互い声を掛け合い、合図をして作業する	
	先行削孔	はさまれ・巻き込まれ	●先行削孔中、ケーシング内の単管を外す際、シングルレンチを直接手で持ち回転させた際に挟まれる	●緩めるのか、締めるのか、はっきりしない合図には操作しない ●レンチを使用する作業で、挟まれる恐れのある部分に塗装を行い、注意喚起する ●オペレータは、必ず手元作業者の確認を行う	
		飛来・落下	●排水ラインのメクラのカムロックが破損し、手元作業員に飛散する	●カムロックの耐圧以上になる場合、送水作業を中断し、圧力を開放する ●緑切りの送水作業時は人払いを徹底する	
プラント工	アジテーター清掃	はさまれ・巻き込まれ	●アジテーター内部を洗浄中、排水用出窓の扉から足を滑らせ、攪拌翼と出窓の間に足を挟む	●アジテーター清掃は、必ず電源を切ってから行う ●アジテーター清掃は、必ずインターロックをOFFにし、鍵を抜いてから行う ●作業用足場を使用して清掃を行う	

大工種	中工種	要素作業	事故の型	危険有害要因の特定(予想される災害)	危険有害要因の除去・低減のために実施すべき事項の特定(防止対策)
陸上地盤改良(共通)	プラント工	アシテータ 清掃	はさまれ・巻き込まれ	●始業開始時の点検中、アシテータ内に入って清掃をしていた時に、別の操作者がアシテータを回転させ、アシテータの視界内に足を挟まれる	●アシテータ内に入る時はプラント操作者に報告し、以下の対策を行う ①インターロックを作動させ鍵を抜いて監視員が鍵を保管する ②監視員を配置する ●アシテータ内に入る時は上蓋を全て開放しアシテータ内が見えるようにする
		プラント洗い	釜場水流出	●バックホウにて釜場の拡充作業を行った際、釜場の土手の一部が崩壊し、プラント洗いが流出する	●十分な量を確保できる釜場を考慮しての事前ヤード計画をたてる ●十分に曝気及び固化した残土を使用して、釜場の土手を造成する
	組立・解体 共通	ストローク計 取付	墜落・転落	●伸縮ストローク計のワイヤー取付中、施工機キャビン上の日よけ用合板に乗り、合板が破損し転落する	●日よけ用の合板に乗らない ●高所作業時には安全帯を使用する ●ワイヤー取付位置を適正な位置に下げる
			はさまれ・巻き込まれ	●施工機をクレーンで組立時、フックの巻き上げ操作中にフックブロックに手を添えて、滑車とワイヤーに手を挟む	●玉掛け作業後、作業場所より3m以上離れたルールとする ●巻き上げ合図後も人払いがなされているか確認し、フックが安全な高さになるまで目を離さない
		クレーン作業	飛来・落下	●シープをクレーンで吊り、ドラムへ巻き込み中、クレーンブームが破損してシープが落下する	●作業指揮者は役割変更する場合は作業を止め、作業手順書を見直し、関係作業員全員に周知する ●作業前に合図者を明確に選任し、関係作業員に周知してから作業を行う ●無線機を使用して、合図を確認しながら作業を行う
			はさまれ・巻き込まれ	●移動式バックホウで掘削機を玉掛中、セーフティロックをかけたまま操作レバーに接触し、仮置した掘削機と吊り上がった掘削機に足を挟まれる	●ドアを開ける際はエンジン音を停止してキーを抜き取り、または、セーフティロックを確実に作動させる ●「無線機」を使用して合図確認を行う ●長尺物の吊り作業時は移動式クレーンを使用する ●作業指揮者が現場を離れた際は作業を止める
			はさまれ・巻き込まれ	●クレーンにて施工機からキャッチホークを取り外そうとした際、荷振れを起こし添えていた手を挟まれる	●経験不足な作業員を配置する際は、作業手順・作業の危険性を十分に指導する ●周知会にて吊り荷が下がることを考慮した持ち手の位置を指示し、作業中に「がもしれ運動」を積極的に行う
			墜落・転落	●クレーン運転室から出ようとして足を滑らせ転落する	●建設機械の運転席からの昇降時、機械の向きを正面に直して、昇降設備を利用する
	クレーン組立	飛来・落下	●ソケットに仕込んでいた主巻ワイヤーが抜けて額に激突する	●ワイヤーを扱う際は、保護シールドを使用する ●差し込んだワイヤーが抜けない様に、ワイヤークリップとロープで仮止め固定し、ワイヤーの抜け防止手順を追加する	
	組立・解体 共通	機材積込	墜落・転落	●トラック上で機材積込み時、物を両手に抱え、荷台の端を移動中に荷台から墜落する	●トラック上で物を抱えて、荷台上を移動しない ●物を移動する場合には、昇降設備(ライトステップ等)を利用する
	搬入・搬出	バックホウ作業	架空線接触	●バックホウを搬出するため、施工ヤードから積込み場所へ移動中、架空線(200V)に接触した	●バックホウ移動時は、架空線の位置を作業前に確認し、アームは格納する
		クレーン作業	ゲート破損	●ダンパアップしたままゲートを通過しようとして、ゲートを破損する	●指定時間以外の車両搬出入を行わない ●ガードマン不在時は車両の出入を禁止する ●降降後、走行前に降車して周囲・上方を確認するよう教育を徹底する
	はさまれ・巻き込まれ		●送水ポンプを玉掛けして取り外す際、ポンプと玉掛けワイヤーの間に手を挟まれる	●クレーンオペから見える位置でも、手合図と無線を併用し、合図者・クレーンオペが互いに合図の復唱を行う	
	その他 整備・点検	変位測量	転倒	●変位計測中、泥付化した部分を避ける為、堤防法面に足をかけた際足元が滑り転倒した	●長靴等、身に着けているものに不備があれば交換する ●ぬかるんだ場所には足場板を設置するなどの整備をする
		トップシープの修理	はさまれ・巻き込まれ	●トップシープを修理する際、ワイヤーをつかんだ手を挟まれる	●非正常作業打合せの実施を徹底する ●コミュニケーション手段を再検討する
		施工機点検中	飛来・落下	●点検時、下部振れ止めの下に入り、振れ止め吊りワイヤーが切断・落下して、下敷きになる	●機械の下に立ち入る場合は、落下防止措置を確実に実行 ●振れ止めの「落下防止ロック」の確認、「ワイヤーによる落下防止」措置を行う
		掘削機交換	飛来・落下	●掘削機の一段目に登り、ピンを抜く際、振れ止め天板裏から残土が落下してあたり、掘削機から転落する	●振れ止め天板の下に入る時は、付着しているセメントがないか確認する ●天板に残土付着がある場合は、天板を叩いて落とす ●掘削機に登らず、作業台を使用する
		配線作業	はさまれ・巻き込まれ	●施工機本体上のトランスボックスの扉が強風で開まり、指を挟む	●トランスボックス扉が風等で開まらないよう、固定する設備を設置する
	冷却水残量確認	高温・低温物との接触	●施工機の冷却水残量を確認するため、リザーブタンク上部のキャップを開けて確認しようとした際、熱水が吹き出し手にかかる	●ラジエーターの取り扱いについて関係者に教育する ●水量点検作業は、始業前又は昼休憩後等で冷却水温度が低い時に行う	

<海上工事>

大工種	中工種	要素作業	事故の型	危険有害要因の特定(予想される災害)	危険有害要因の除去・低減のために実施すべき事項の特定(防止対策)
コンクリートブロック	消波ブロック製作	移動中	墜落・転落	●消波ブロック打設用単管作業床で作業中、足場板が外れ転落する	●点検を実施し、足場板の固定を確認する ●点検項目に加え、記録を残す
	消波ブロック据付・撤去	玉掛け治具交換	はさまれ・巻き込まれ	●消波ブロックの玉掛け治具交換時、鉄棒がすべり治具とデッキに指を挟む	●作業時には台木を準備する ●鉄棒を使わないフック構造(吊り上げピースを取付)にする ●詳細作業手順書を作成し、周知する
	異形ブロック(製作・搬入・運搬)	型枠脱型及び転置	はさまれ・巻き込まれ	●ブロックとワイヤーの間に手・指を挟まれる ●型枠上または足場上から墜落転落する ●側型枠を人力で無理に脱型し、側型枠が激突する	●ワイヤーを直接持たない玉掛け方法を実施する ●型枠上部の緊締金具を外す際は、適切な足場を使用する ●側型枠型作業手順に従って作業する
防波堤	防波堤下部工	鋼管矢板切断	爆発	●既設鋼管矢板切断時に発生する水素ガスを抜くため、水中溶断機で鋼管矢板に穴開け作業中に水中爆発する	●鋼管矢板先端からコア抜きを行い、可燃性ガスを放出させる ●打合せない作業は行わないやむを得ず作業をする場合は、自己判断せず状況を確認の上、作業手順を見直し再度作業を行う旨周知徹底する
	ケーソン製作	足場解体	墜落・転落	●ケーソンから取り外した鋼製足場を分解中、部材にたすき足場から落下する	●簡単な作業でも油断せず、危険予知を行う ●足元にある部材は踏んぬき恐れがあるため、先行して片付けを行う ●職長及び職員は、作業終了後は必ず作業中のケガ、異常等の確認をする
	ケーソン進水据付	蓋ブロック据付	墜落・転落	●縄梯子を使用してRCケーソン遊水部に降下する際、縄梯子の固定治具が外れ墜落する	●使用する仮設備(昇降設備)や、仮設等に加工材を使用する際は、安全性を確認してから使用する ●安全ブロックは昇降設備には直接設置せず、単独で機能する箇所に設置する
護岸	準備工	敷鉄板敷設	はさまれ・巻き込まれ	●敷鉄板をバックホウバットの爪で浮かした状態にして、玉掛者が吊具を外すため手を出した時、鉄板が落下し吊具が倒れ、手指が敷鉄板と吊具の間に挟まれる	●挟まれ防止の角材使用を作業手順書に明記し改訂するその後周知徹底する ●敷鉄板、バックホウの動きが停まるまで合図者が制止し、角材等を挟んで吊具が挟まれないようにし、敷鉄板を降ろした後に玉外しする ●敷設時の再吊り上げまで角材は存置する
	ボーリング工	海上ボーリング	台船大破	●設置していたセッパ台船が時化により傾き、その後波により大破する	●セッパ台船組立時に各部材の点検・確認を行う ●セッパ台船選定基準(平均風速、有義波高)を適宜見直す
	コンクリート打設	水中コンクリート打設	飛来・落下	●先端ホースをクレーンで吊って打設中、ホースが破裂して生コンが飛散する	●ポンプ車にて生コン打設の際は、保護メガネを着用する ●先端ホースは2点吊りとし、ホースにつぶれや折れがないことを点検した後打設する ●先端ホース(5時)の外側に8時のサニーホースで養生し、破裂しても生コンが飛散しないようにする ●ポンプ車の日常点検に加え、ホース・配管も点検を行い、不備のある物は交換する
(圧密地盤 締固め)	準備工	汚濁防止膜設置	激突され	●汚濁防止膜の介錯時、アンカーボルトに引っかかっていた操船ワイヤーが外れ足に当たる	●操船ワイヤーに近づく際は、引っかかりのないことを確認する ●操船ワイヤー付近での作業時、事前の状況確認を行い、監視員を配置する
	アンカー移動	吊荷作業	はさまれ・巻き込まれ	●アンカーを吊り上げ甲板へ移動させた際、荷振れし手で押さえたため、手摺とアンカーに手を挟まれる	●吊上げ・吊降時は、介錯ロープを使用し、吊荷に直接手を触れない ●波浪の影響が及ぼす危険性についての再確認をする
(地盤改良)	曳航	曳航接続作業	燃料漏れ	●曳航機移動の際、曳航と台船のアンカーが接触し、曳航機の燃料タンクに穴が空く	●曳航機から接続する作業手順書を作成し、関係者に周知する ●曳航機にて定位置まで引寄せ、砂防蓋台船の側面から曳航機により押しつけてガット台船に接続させる ●曳航機にて定位置まで戻す時のみロープを使用し、砂防蓋台船の側面から曳航機により押しつけてガット台船に接続させる
	攪拌機洗浄・取替	攪拌機の肉盛り溶接補強	飛来・落下	●攪拌機の肉盛り溶接補強中、保護メガネをかけておらず、スパッタが飛来し目を火傷する	●適正保護具の使用を徹底する ●作業しやすい場所を確保する
	打設	深層混合処理杭打設	鉄粉の飛散	●CDM現場搬入後、護岸背面の駐車場に置いてある車に鉄粉が飛散する	●回転部と非回転部の摩擦防止として、配管を設置し水を流す

大工種	中工種	要素作業	事故の型	危険有害要因の特定(予想される災害)	危険有害要因の除去・低減のために実施すべき事項の特定(防止対策)
海上 地盤改良 (共通工)	ヘルト交換	グラウトポンプのベルト交換	はさまれ・巻き込まれ	●緩んだグラウトポンプのベルトを交換中、手を巻き込まれる	●修理作業開始前に、電源を落とす ●事前に無線機の感度を確認する ●ポンプ稼働時は、『無線連絡⇒復唱』の手順を踏む ●修理灯のモニターを設置し、常に確認する
			激突され	●係留作業中、ロープが無理な力が加わり切断又は解けて、乗組員がロープに跳ねられる	●着火船の曳船用ガイドに係船ロープが引っ掛からないような形状にする ●着火船の船首甲板部に立入禁止区域を明示する ●係留ロープ、補助ロープの始業前点検を確実に実施する ●ペンドル(タイヤ)に係船ロープが絡まることのあるので、係船ロープの動きを監視する
	船船係留	船船係留	はさまれ・巻き込まれ	●引き船を起重機船に係留時、船体が動揺して係留ロープとヒットに手を挟む	●係留ロープを掛ける際、補助ロープの使用を徹底する
			激突され	●係留ロープの受渡し時、チャッカ船上の作業員がロープをつかもうとしたところ、ロープが落下して手に当たる	●受け渡しの合図を徹底する ●補助ロープを持って引き寄せる
			はさまれ・巻き込まれ	●船体とスバッドの隙間にキャンパーを設置する際、船舶の動揺で手指を挟む	●キャンパー外側に握れる持ち手を加工し、設置面に指が入らない構造にする ●船舶の動揺を確認し、収まってから作業する
			転覆、油流出	●岸壁に係留していた潜水士船の取水装置が破損・浸水・転覆して、燃料の軽油が流出する	●取水装置(キングストン)の始業前点検を点検項目に追加し、結果により必要な措置を講じる
			船沈没	●台船付近に係留していた船が沈没する	●引船の台風待避はさらに安全性が高い場所へ退避する ●大きい波浪が想定される場合は、引船と作業船の横抱きを行わない ●可能な限り、小型船舶は陸上(起重機船上)に揚げて固縛する
	積込・運搬	船外機への積み込み	転倒	●船外機に資材等を卸し、岸壁に戻ろうとした時に船外機と岸壁の間に足を踏み外して転倒する	●係留ロープを取る際、船舶と岸壁の隙間をできるだけ小さくする ●軽作業であっても、KY活動を実施するなどしてマンネリ化を防ぎ、注意喚起を行う
			乗船	●ガットバージの防舷タイヤに足をのせ、曳船兼揚船船に乗り移ろうとした際、外舷で足を滑らせ転倒を打つ  ●SD船から揚船船へ移動する際、甲板上で滑り転倒する	●段差の小さい防舷材側(船船側のペンドル)から曳船兼揚船船へ乗り移る ●乗り移らず、係留ロープをガットバージのヒットへ設置し曳船兼揚船船側からハッカを使用してロープを取る若しくは、ガットバージ側の人を配置しロープを取ってもらう ●外舷が滑りやすい場合、滑り止め措置を行う  ●交通船に係留しやすい位置に昇降設備を設置し、使用する ●昇降箇所にゴムタラップを設置する ●滑り防止マットのある場所を乗降する ●防滑安全長靴を使用する
	ガス溶接	アセチレンポンプの運搬	はさまれ・巻き込まれ	●アセチレンポンプを運搬し、ポンプを立掛けようとして、奥にあるポンプとの間に指を挟まれる	●ポンプを立掛ける時は、指の位置を確認する ●一人で無理がある時は、二人で行う ●ポンプとポンプの間に間仕切りを設ける
荷卸し			●工具をロープで降ろした際、括っていた番線カッターが抜け落ち激突する	●蓋つき工具袋に入れて上げ下ろしを行う入らないものは、2箇所以上固縛する ●高所作業中の退避エリアを決め、明示し、立入禁止とする立入る際は無線連絡を行い、作業を一旦停止する	
その他	分電盤の修理	感電	●発電機のブレーカーを落とさずに分電盤の点検・修理作業し、活線に接触し感電する	●故障が発生した場合は、電源を落とし作業を中止した後に行う ●点検・修理作業時には、電気検知機にて検測する ●分電盤には、行き先表示および注意喚起の表示をする	

<陸上・海上 共通工>

大工種	中工種	要素作業	事故の型	危険有害要因の特定(予想される災害)	危険有害要因の除去・低減のために実施すべき事項の特定(防止対策)
(陸 共通 工) 海上	積込・運搬	ダンブ運搬	はさまれ・巻き込まれ	●落下したアオリを取り付ける際、バランスを崩して荷台とアオリに手をはさまれる	●業務内容、作業員の技量を把握した人員配置を行う ●アオリ下部のロックピンを取付けする
			はさまれ・巻き込まれ	●ダンブアオリを手で持ちあげピンを嵌める際、アオリが開まり指を挟まれる	●外れ止めのストッパーが振動等で上がらないよう番線等で固定する ●日常点検時にストッパーが固定されているかチェックする ●予定外作業が発生した場合、非常時のルールに従って非常時作業KYを行う
			はさまれ・巻き込まれ	●スリ下ろし後、アオリ部分に挟まっていた石を手で取り除いた際、アオリが下りてきて手指を挟まれる	●荷下ろし時、スリが完全に落ち切ったことを確認する ●作業手順書に、アオリに石が挟まった際は再度ダンブアップして取り除くよう明記する
			墜落・転落	●ダンブ荷台の泥土付着状況を確認しようとして荷台に上った際、足を滑らせ落下する	●足を掛ける箇所に滑り止めシールを張り付ける ●運搬途中での荷台の確認は基本として行わない ●昇降時は、靴底の泥、雪等を取り除く
			墜落・転落	●トラック荷台から降車時、梯子に足をかけてバランスを崩し、トラックのあたりで胸部を強打する	●単管、番線(スマートロック)等で固定し使用する ●作業手順書に昇降設備の設置、固定方法について追記し作業員に徹底する
			積荷落下	●ダンブ荷台から積荷のスリが落ち、後方の一般車に接触する	●土砂積込の際、荷台後部にこぼれ防止のポケットを設置する ●監視員はダンブ荷姿の確認(ポケットの形状等)を行う ●路面状況(大きな段差、轍、その他障害物)を示した資料を作成し、関係運転手への周知と日々のKYを徹底する
			交通事故	●信号待ちで停止中ドライブレコーダーに手を伸ばした際、ブレーキペダルが緩み前方車両に追突する	●前方をよく確認する ●車間距離を確保する
	積込・運搬	バックホウ作業	はさまれ・巻き込まれ	●バックホウ点検の際、ハンマーとレンチでボルトの増し締め作業中、レンチとハンマーの柄に指を挟まれる	●適正な工具を使用する ●非常時作業時は、作業方法、使用工具等を打ち合わせし、非常時作業KYを実施してから作業を行う
			はさまれ・巻き込まれ	●バックホウバケットの先で敷鉄板を持ち上げた際、敷鉄板が落下し指を挟まれる	●バックホウを使用して吊り上げる際は、専用吊り具を使用する ●用途外使用禁止の指導・徹底する ●非常時作業における作業手順を周知する
			機械滑落	●バックホウで転石をヤードへ運搬する為法肩付近に近づいた際、法肩が崩れ重機が滑落転倒する  ●ストレンジャーバケットを装着したQ.8m <sup>3</sup> 級バックホウが、伐採材集積用パイロット道路の先端からため池に転落する	●重機足場の安全を確保した作業計画とする ●法肩を明示し近づかない  ●パイロット道路の幅は適切にとる ●手順を変更する場合は手順を確認しKYを実施する ●転圧が適切な状態であるか確認する ●重機の重心を崖側にかけない
			架空線切断	●運転席上方を十分確認しないまま運転し、架空線を切断するまた、切断した架空線で感電する	●架空線下での作業は見張人を付け監視する ●架空線付近には注意喚起の表示を設置する
	積込・運搬	移動式クレーン作業	機械転倒	●クレーン仕様バックホウで敷鉄板を吊り上げ反置きする際、バランスを崩し機械が転倒する	●吊作業は重機を平坦な箇所に設置して行う ●斜路で作業する際は、ラフタークレーン等を使用する ●機械の作業能力を確認・明示し、周知する
			飛来・落下	●クレーン仕様バックホウのバケットを下げた際、吊枠とホッパーが架台から脱落し、吊枠が肩に接触する	●吊ワイヤの玉外しは確実に行う ●同時吊荷作業をする場合は、クレーン仕様バックホウではなくクローラクレーンを使用する ●作業指揮者は笛を使用し、人払いを徹底する ●具体的な作業手順書(吊枠・ホッパーの設置方法)を作成、周知する
			墜落・転落	●ラフタークレーンでユニック車に材料積込中、バランスを崩し荷台上から転落する	●親綱設備を確実に設置し、安全帯を使用して作業を行う ●クレーン操作は、合図者の指示により行う ●積荷束は2段積みまでとする
	積込・運搬	移動式クレーン作業	架空線切断	●ラフタークレーンで山留材搬入荷下ろし時、山留材が架空線に接触し、光ファイバーケーブルを損傷する	●資材はクレーン作業ができる場所に置く ●合図者を専任して作業を行う ●合図者には笛を持たせ、危険時の合図を明確にする
			送電線短絡	●送電線下で、クレーンで荷を吊って移動しようと旋回した時、ブームが送電線に接近して、短絡する	●作業前に、電力会社の立会いを行い、送電線高さおよび離隔距離を確認する ●送電線下での作業は、監視人を置き、作業を監視させる ●クレーンに操縦指示ロープ等を設置して、安全措置をする ●送電線下に、危険標識を設置する
			ユニック車	●結束バンドで固縛された鋼製型枠の束をユニック車で吊りあげ旋回した際、バンドが切断し滑り落ちる	●資材を吊り下ろす際は、立入禁止処置を実施する ●鋼製型枠の束を吊り上げる際は、レバロック+ベルトスリングにて堅固に固縛する ●出荷時の荷を工夫する(1梱包の重量)
	掘削	バックホウ作業	埋設物損傷	●バックホウで掘削中に埋設物(ケーブル・水道管等)を損傷させる	●埋設物の位置・高さを安易に判断せず、試験を行う ●埋設物付近の掘削は手掘りで行う

大項目	中項目	要素作業	事故の型	危険有害要因の特定（予想される災害）	危険有害要因の除去・低減のための実施すべき事項の特定（防止対策）
（陸 共通・海 上）	準備工	除草作業	蜂さされ	●草刈機にて除草中、蜂に刺される	●除草前に先行者1名が蜂用殺虫剤を散布し、蜂がいるかを確認する ●蜂の巣を発見した場合、一度全ての作業員を退避させ、駆除を行う ●蜂の種類、習性、予防方法、刺された場合の処置方法を周知する
		除草作業	蜂さされ	●仮置場にて草刈り作業中に蜂に刺される	●作業場所の蜂の巣等の有無の点検を行う ●朝礼時、蜂についての注意喚起を行い、蜂等がいるかもしれないと認識して作業を行う ●作業前、作業着に虫よけスプレーを噴霧する
		ガードフェンス補強	飛来、落下	●セットハンマーにて油圧ホースのカップラー先端部を叩いた所、ホース内の油が噴出し目に入った	●油圧ホースの使用前点検を実施し、不具合がないか確認する ●油圧ホースに圧がかかっている場合は使用を一時中断し、無理にハンマー等で叩かないよう徹底する
		丁張設置	動作の反復、無理な動作	●セットハンマーで鉄筋を打込む作業を2人で実施時、手の甲を叩く	●セットハンマー使用時は手甲ガードを支給し、使用する、 ●打ち込みは慎重に行う
	切れ・こすれ		●コンパネ切断面のささくれを取り除く時にカッターナイフで左親指を切創した	●カッターナイフの刃先に指がない様に物を持つ ●刃物を使用する作業では切創防止手袋を着用する ●ささくれ削りは刃物ではなく紙ヤスリを使用する	
	電動工具	コンクリートのはつり	はさまれ・巻き込まれ	●ハンドブレーカのピックの先が鉄筋に噛んで、ハンドブレーカが回転して手を挟まれる	●ハンドブレーカは、逆手に持たない事を徹底する ●指は、ハンドルの外側に出さないを徹底する ●ブレーカ作業は、危険な作業である事を周知徹底する
		グラインダー仕上げ	飛来・落下	●パイプ材を溶接・グラインダー仕上げ時、鉄片が目飛散する	●研磨作業時はゴーグルタイプの密着性の高い保護メガネを着用する ●研磨作業時は送風機等の活用により作業着を風上に配置して作業する
		高圧洗浄機点検	飛来・落下	●高圧洗浄機の整備点検中、突然ノズルから水が噴射し目にあたる	●ノズル先端方向に人がいないことを確認してからレバーを握る ●整備・点検中においても保護メガネを着用する ●高圧洗浄機使用時の作業手順を再度、周知・徹底する
	高温環境下での作業	全ての作業	熱中症	●高温環境下での作業中、熱中症にかかる（資材片付、敷鉄板移動、モルタル吹付、トラック積込、蛇かご製作、型枠解体、鉄筋組立、プラント組立、施工機組立解体、コンクリート打設、支保工組立、足場解体、誘導など）	●水分・塩分の適切な摂取と涼しく適度な休憩ができるような準備・設備を整える ●入場時に、既往症・異常所見の有無を健康診断結果等により確認し、有の場合は作業・配置等について配慮する ●体調に異常を感じたら、速やかに報告するよう指導する ●各作業員に熱中症対策を含め、自ら体調管理に努めることを徹底指導する
	場内歩行	場内歩行	転倒	●斜面上・養生シート上・敷鉄板上で滑り転倒する	●定められた安全通路を歩行する ●靴が滑りやすい場合は、所定の場所で足洗いをする ●隙間・段差部分に対して敷鉄板の段差解消資材で養生する
				●養生シート上を踏ごうとして引っ掛かり、足を捻る	●近道行動をしない ●資材積み置き場を決め、通路にもものを置かない

<その他の共通事項>

大項目	中項目	要素作業	事故の型	危険有害要因の特定（予想される災害）	危険有害要因の除去・低減のための実施すべき事項の特定（防止対策）
安全	交通事故	業務中の移動	-	●運転時に交通事故を起こす（駐車場から発進時、交差点での右左折時、車線変更時の事故、自転車進入）	●交通ルールを遵守する ●左右・前方・後方をよく確認して発進、右左折する ●安全運転講習による指導を行う ●リース車における衝突防止装置を配備する
			-	●もらい事故にあう（後続車から追突される等）	●周囲の状況確認を行う
			-	●路面凍結で車が滑り、人や物に接触する	●冬道では走行速度を抑える「1割の速度減、2割の車間距離、3分早めに出発」の励行 ●ハンドル操作やブレーキのかけ方、路面状況の把握方法を安全教育等で指導する ●「かもしれない」の意識を持ち、凍結箇所・雪道ではスリップすることを考慮し運転するよう周知徹底する
			-	●一般道・高速道路で他車両よりあおられて交通事故を起こし、怪我をする	●遭遇したら、相手にせず窓を開けず直ちに警察へ連絡する
			-	●長時間の運転で疲労し交通事故を起こし、怪我をする	●2時間運転したら、10分休憩をとる
	通勤	-	●通勤時、車に接触する（横断歩道歩行時等）	●左右・前方をよく確認して横断する ●信号点滅時等は、無理に渡らない ●時間に余裕をもって出掛け急がない	
	通勤時や業務中の怪我	通勤時や業務中の移動	-	●階段を踏み外し、転落する	●段差をよく確認する ●段差を踏み外さないような靴をはく
		-	●階段を登る際、ふらついて転落する	●階段を使用する際は、手摺りを掴み昇降する ●可能な限りエレベーターを使用し、階段を使用する際はゆっくりと息を整えながら昇降する	
衛生	疾病	健康診断	-	●健康診断を受診せず、病気の発見が遅れる	●年1回の定期健康診断は必ず受診する
			-	●健康診断結果を放置して、病気が悪化する	●検診結果に従い、適切な対応を行う
			-	●特定業務従事者(深夜業)健康診断を受診せず、生活習慣病やガンになる	●年2回の特定業務従事者(深夜業)健康診断は必ず受診する
	感染症	-	●感染症に罹患する	●三密を避け、外出時・店内ではマスクを着用する	
メンタルヘルス	職場環境	-	●ストレスチェックを受検せず、疾患を見逃しメンタルを崩す	●ストレスチェックを受検する	
		-	●高ストレス者へのフォローがなく、メンタルが悪化する	●高ストレス者への職場環境改善を行う	

2025年度最重点実施事項として展開しています

## STOP類似災害！

過去の**対策**忘れずに！ 見直そう**作業手順**！！

災害の発生件数を少しでも減らすためには、過去の災害から学び、同じような災害が再発しないようにすることが重要です。

**類似災害**が再発しないように、過去の災害を振り返り、再発防止のための**対策**を**作業手順**に反映し、見直してください。

また、現場で災害が発生した際には、災害報告書に記載された原因と再発防止対策を、後から現場に入ってくる作業員にも伝えてください。

そのために、**新規入場者向けの教育資料**に追加したり、詰所などに**掲示**してください。

### STOP類似災害！

- ①現場に関係する過去の**災害事例**を確認する
- ②災害事例の**対策**を**作業手順**に反映して、見直す

現場で災害が発生、後日入場する作業員へ周知するために、

- ①**新規入場者向けの教育資料**に災害報告書を追加する
- ②災害報告書を詰所などに**掲示**する

# リスクアセスメントの結果を反映した 安全衛生目標・安全衛生管理計画・作業手順書の作成と周知

## 1. リスクアセスメントの結果の反映

### ① 作業所の「危険有害要因の特定等の結果表」の作成

- 現場の特色に対しての危険有害要因の特定と危険有害要因の除去・低減のために実施すべき事項の特定(防止対策)を記述する

改訂: 2023年10月1日

危険有害要因の特定等の結果表

作成日: 年 月 日

作業所・事業所: \_\_\_\_\_

作成

危険有害要因に結びつくと考えられる固有の特色	
①	民地・民家に近接している
②	架空線が現場を横断している
③	作業箇所が狭隘
④	河川に近接している

危険有害要因の特定と対策

大工程	中工程	要素作業	危険有害要因の特定 (予想される災害)	危険有害要因の除去・低減のために実施すべき事項の特定 (防止対策)
①				
②				
③				
④				

現場の特色に対して、下記を記述  
①危険有害要因の特定  
②防止対策

### ② 作業所の安全衛生目標の作成

### ③ 作業所の安全衛生管理計画の作成

下図の通り、安全衛生目標・安全衛生管理計画を作成する

工事名: \_\_\_\_\_ 工事安全衛生管理計画表

作成

工事安全衛生方針		全工期無事故・無災害の達成														
工事安全衛生目標		①クレーン玉掛け関連災害の防止 ②墜落・転落災害防止 ③公衆災害・公衆事故の防止 ④建設機械接触災害防止 ⑤交通事故の防止														
月日		10	20	30	10	20	31	10	20	30	10	20	30	備考	安全施工サイクル	
工事工程表															【毎日の実施事項】 ①安全朝礼(ラジオ体操) ②安全ミーティング(KYK) ③作業開始直後 ④統括安全衛生責任者等による安全確認 ⑤安全衛生責任者等による作業中の指導・監督・職場内教育 ⑥安全工程打合せ ⑦持ち帰り片付け ⑧終業時の確認、報告	【毎週の実施事項】 ①週間点検(標識、看板、バリエード等) ②週間安全工程打合せ ③週間一斉訓練
安全当番	主たる作業(中工程)														【毎月の実施事項】 ①労働災害防止協議会の開催 ②安全大会の開催 ③定期点検、自主検査 ④災害事例等による安全教育・訓練 ⑤職民会の実施 ⑥店社安全パトロール	
危険有害要因の特定(予想される災害)		クレーン玉掛け関連災害 墜落・転落災害 その他 (時期的・工程的に予想される災害)	建設機械接触災害 その他 (時期的・工程的に予想される災害)	建設機械接触災害 墜落・転落災害 公衆災害・公衆事故 交通事故											【毎月の実施事項】 ①入庫予定者との打合せ ②新規入庫者教育 ③持ち込み機械の届出確認	
災害防止対策	衛生対策	3.3.3運動の実施 合図の復唱確認助行 フルハーネスの完全着使用 手摺等安全設備の点検 その他														

工事安全目標の項目を考慮し  
月毎の予想される災害を特定

危険有害要因の特定の結果表の  
現場固有の特色を考慮する

予想される災害に対して  
防止対策を立案

#### ④ 作業手順書の作成

- 作業所の「危険有害要因の特定等の結果表」の**予想される災害・防止対策**を作業手順書に反映させる

改訂:2016年4月1日

元 請 確 認 欄

### 作 業 手 順 書

P. 1

工 事 名		作 成 者		作 成 年 月 日		改 訂 年 月 日		職 務		人 員		確 認 欄	
作業内容		使用機械		保 護 具		資 格 ・ 免 許 等		安全衛生責任者		職 長			
(フロー図等を記載する)								作業主任者		作業指揮者			
作 業 概 要		使用工具・材料											
作業区分	No.	作業手順	作業の要点・急所	危険性または有害性				危険性または有害性の低減対策 (災害発生予防対策)				担 当 責任者	
				可能性 ①	重大性 ②	評価点 ①×②	評価						
				<b>予想される災害</b>				<b>防止対策</b>					

**リスクアセスメントの結果**を**安全衛生目標・安全衛生管理計画・作業手順書**に反映し、**早期に危険の芽を摘み災害事故防止に努めましょう！！**

# 外国人労働者に対する適切な安全指導の実施

## 1. 外国人労働者の災害発生状況

近年、建設現場に従事している外国人労働者の増加に伴い、外国人労働者の災害も増加している。当社においては、2024年度1件、2023年度5件、2022年度2件の災害が発生している。

## 2. 外国人労働者の災害の主な原因

- ・ 言語や文化の違いに起因する**意思疎通**の不足
- ・ **作業手順**や**危険箇所**の認識不足
- ・ **保護具**や**安全装置**の使用に関する知識不足

## 3. 外国人労働者を対象とした災害防止対策

### ① 安全教育の実施

- ・ 厚生労働省HP 外国人労働者向け教材  
テキスト・動画

[https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_10973.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_10973.html)

マンガでわかる働く人の安全と健康

[https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_13668.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_13668.html)

- ・ 建設業労働災害防止協会HP 安全衛生教育映像教材

[https://www.kensaibou.or.jp/safe\\_tech/foreign\\_worker\\_education/index.html](https://www.kensaibou.or.jp/safe_tech/foreign_worker_education/index.html)

**4. 建設現場の安全ルール**

**ごんぼ車は禁止です!!**

階段を駆け上がり降りたり駆け回る

不用意に資材などの上に上がる

ポケットに手を入れて歩く

**守るべきこと**

- ・ 安全通路を必ず使用すること。
- ・ 重機等の作業半径内は立ち入らないこと。
- ・ 資材置き場等に不用意に近づかないこと。
- ・ 2階以上の作業場所への移動は指定された昇降設備を使用すること。
- ・ 休憩場所は指定された場所、時間帯を守ること。
- ・ 作業内容は、職長や上長等の指示を厳守すること。

**(4) QUI ĐỊNH AN TOÀN Ở CÔNG TRƯỜNG XÂY DỰNG**

**Nghiêm cấm các hành động như sau:**

Chạy lên xuống cầu thang.

Ngồi vô ý lên trên vật tư vật liệu.

Cho tay vào túi quần và đi bộ.

**QUI ĐỊNH PHẢI TUÂN THỦ**

- ・ Qui định phải sử dụng lối đi an toàn.
- ・ Qui định không đi vào bán kính làm việc của máy xây dựng hạng nặng.
- ・ Qui định không được vô ý đến khu vực kho (chỗ để) vật tư vật liệu.
- ・ Di chuyển lên chỗ làm việc ở trên tầng 2 qui định sử dụng thiết bị lên xuống đã được chỉ định.
- ・ Chỗ nghỉ giải lao là chỗ đã được chỉ định và phải tuân thủ giờ giấc.
- ・ Nội dung công việc qui định thực hiện đúng theo chỉ thị của quản đốc hoặc người phụ trách.

## ② 「やさしい日本語」によるコミュニケーションの実施

平成7年の阪神・淡路大震災では、多くの在日外国人も被災した。在日外国人の母語は様々であり、災害が起こった時にすぐに多言語に翻訳するのは困難との教訓より、弘前大学の佐藤和之教授らが考案した。

図3 「やさしい日本語」のポイント

### POINT ① 話し出す前に内容を整理する

⇒全体像を最初に示しましょう  
「結論を先に話す」ように心がけると、話が分かりやすくなります

### POINT ② 一文を短くし、語尾を明瞭にして文章を区切る（「です」「ます」で終える）

「ので、から、が、けれど、て、で、たら」といった接続助詞でつながる文を切って分けましょう  
「血圧を測らせていただくので、こちらの椅子に腰かけていただけますか。」  
⇒「血圧を測ります。この椅子に座ってください。」

### POINT ③ 尊敬語・謙譲語は避けて、丁寧語を用いる（ため口も避ける）

外国人にとって尊敬語・謙譲語はととも難解なので、外しましょう  
「です・ます」の形は最初に教科書に出てくる基本形です  
「ご記入ください」⇒「書いてください」  
「これはあぶないよ」⇒「これはあぶないです」

### POINT ④ 単語の頭に「お」をつけない（可能な範囲で）

「お薬」「お会計」⇒「薬」「会計」

### POINT ⑤ 漢語よりも和語を使う

漢語は専門用語などによく使われますが、聞いただけ（音だけ）では意味が伝わらないものが多いです  
その場合、次のような対応が考えられます

#### A. 置き換える：日常用語に置き換えられるもの

「明日は8時に集合してください」⇒「明日は8時に 集まって ください」  
「この作業は4時に 終了します」⇒「この 作業は 4時に 終わります」

#### B. 説明を加える：理解度が低く説明が必要な用語

#### C. 意図的に使う（解説付き）：現場でよく使う大事な用語

研磨（磨く）、裁断（切る）、確認（確かめる）

### POINT ⑥ 外来語を多用しない

外国人には外来語の理解が難しく、英語起源の外来語であっても伝わるとは限りません（そもそも英語はあまり伝わりません）

### POINT ⑦ 言葉を言い換えて選択肢を増やす

「測定します」⇒「測ります、調べます」

### POINT ⑧ ゼスチャーや実物提示

操作盤などは指差して説明、工具などは実物を見せる

### POINT ⑨ オノマトペ（擬音語・擬態語）は使わない

「ふわふわ」「どンドン」「ガシャン」「サット」「ガンガン」⇒なるべく使わない

### POINT ⑩ 相手の日本語の力が高い場合は「やさしい日本語」をやめる

⇒状況に合わせてスイッチを切る

### ③ 危険箇所等の注意喚起明示

- 建設業労働災害防止協会HP 建災防統一安全標識一覧(外国語標示例)

[https://www.kensaibou.or.jp/safety\\_sign/foreign\\_language\\_safety\\_sign.html](https://www.kensaibou.or.jp/safety_sign/foreign_language_safety_sign.html)

## 建災防統一安全標識一覧 (外国語標示例)

現在位置 / トップページ / 図書・用品のご案内 / 建災防統一安全標識のご案内  
/ 建災防統一安全標識一覧 (外国語標示例)

---

建災防統一安全標識一覧 (外国語標示例)

<h3>立入禁止</h3>  <p><b>Do Not Enter</b> 禁止入内 CẤM VÀO Dilarang! Masuk BAWAL PUMASOK (1)立入禁止 JPEG [129KB]</p>	<h3>禁煙</h3>  <p><b>No Smoking</b> 禁止吸烟 CẤM HÚT THUỐC Dilarang! Merokok BAWAL MANIGARILYO (2)禁煙 JPEG [135KB]</p>	<h3>火気厳禁</h3>  <p><b>Danger: No Open Flame</b> 严禁烟火 CẤM LỬA Dilarang! Menggunakan Api MAPANGANIB: BAWAL ANG APOY (3)火気厳禁 JPEG [161KB]</p>	<h3>駐車禁止</h3>  <p><b>No Parking</b> 禁止停车 CẤM ĐÓ XE Dilarang! Parkir Disini BAWAL PUMARADA (4)駐車禁止 JPEG [134KB]</p>
 <p>(5)一般禁止 JPEG [58KB]</p>	<h3>頭上注意</h3>  <p><b>Watch Your Head</b> 当心头顶 CHÚ Ý TRÊN ĐẦU Awat! Bagian Atas Kepala INGATAN ANG ULÓ! (6)頭上注意 JPEG [126KB]</p>	<h3>足もと注意</h3>  <p><b>Watch Your Step</b> 注意脚下 CHÚ Ý DƯỚI CHÂN Awat! Bawah Kaki INGATAN ANG HAKBANG! (7)足もと注意 JPEG [135KB]</p>	<h3>開口部注意</h3>  <p><b>Danger: Opening in Floor</b> 当心开口处 CHÚ Ý LỖ MỖ Awat! Ada Lubang MAPANGANIB: MAY BUTAS SA SAHIG (8)開口部注意 JPEG [134KB]</p>

下記の適切な安全指導を行い外国人労働者の災害事故防止に努めましょう！！

- ①安全教育の実施
- ②「やさしい日本語」によるコミュニケーションの実施
- ③危険箇所等の注意喚起明示

# 架空線位置の確認・明示と防護、 地下埋設物位置の確認・明示と試掘の確実な実施

## 1. 架空線事故発生状況

日本建設業連合会作成の資料によると会員会社の架空線事故は、2023年66件、2022年56件、2021年64件発生している。

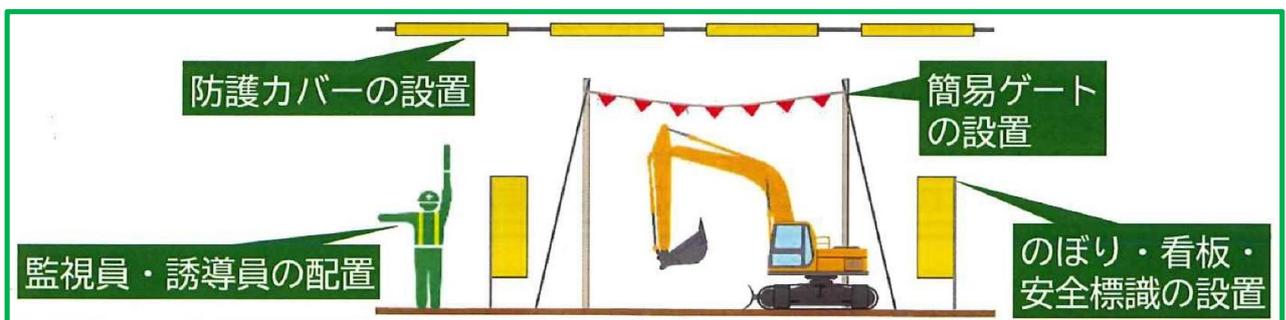
当社においては、2024年度3件、2023年度0件、2022年度1件の事故が発生している。

## 2. 架空線事故の主な原因

- ・ 運転手等の判断ミス
- ・ 重機・クレーン等の誘導なし
- ・ 架空線防護なし
- ・ 架空線の高さの確認なし
- ・ 作業打合せで架空線対応の指示なし

## 3. 架空線事故防止対策

- ・ 簡易ゲート・三角旗、のぼり旗・看板・安全標識等の設置
- ・ 防護カバーの設置
- ・ 監視員・誘導員の配置
- ・ 作業計画の作成
- ・ 安全教育の実施



出典：近畿地方整備局「あんぜん」

上記、**架空線事故防止対策**を作業打合せで指示し、  
確実に実施して事故防止に努めましょう！！

## 1. 地下埋設物事故発生状況

日本建設業連合会作成の資料によると会員会社の地下埋設物事故は、2023年160件、2022年181件、2021年150件発生している。

当社においては、2024年度1件、2023・2022年度は事故が発生していない。

## 2. 地下埋設物事故の主な原因

- ・ 作業打合せで架空線対応の指示なし
- ・ 試掘なし、不十分
- ・ 台帳等の事前確認が不足、記載なし
- ・ 埋設物の位置と図面との相違
- ・ 路上マーキングなし

## 3. 地下埋設物事故防止対策

- ・ 台帳等による地下埋設物位置の確認・明示
- ・ 埋設物管理者への確認、立会
- ・ バックホウ・人力・地中探査棒による試掘の確実な実施
- ・ 監視員の配置
- ・ 作業計画の作成
- ・ 安全教育の実施



出典: 日本建設業連合会「地下埋設物安全旬間ポスター」

上記、**地下埋設物事故防止対策**を作業打合せで指示し、**確実に実施して事故防止に努めましょう！！**